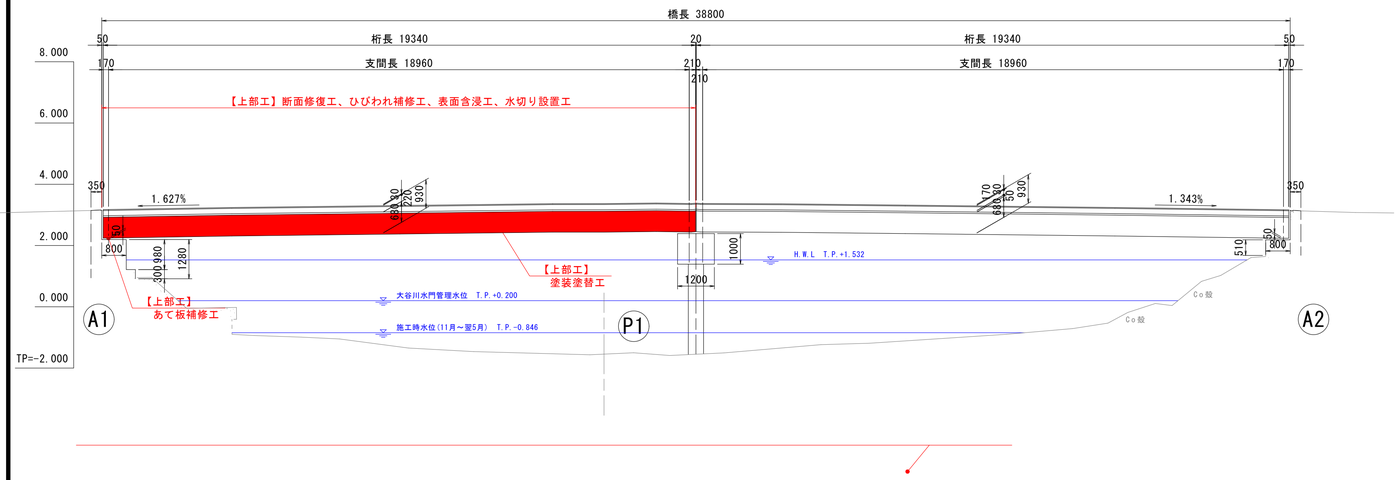
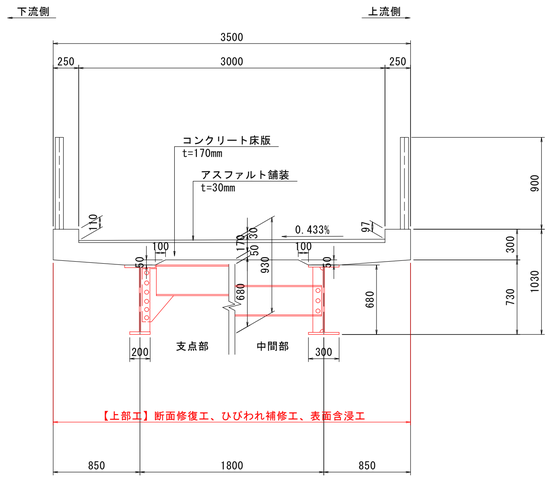
補修一般図 S=1:100

大代谷橋歩道橋

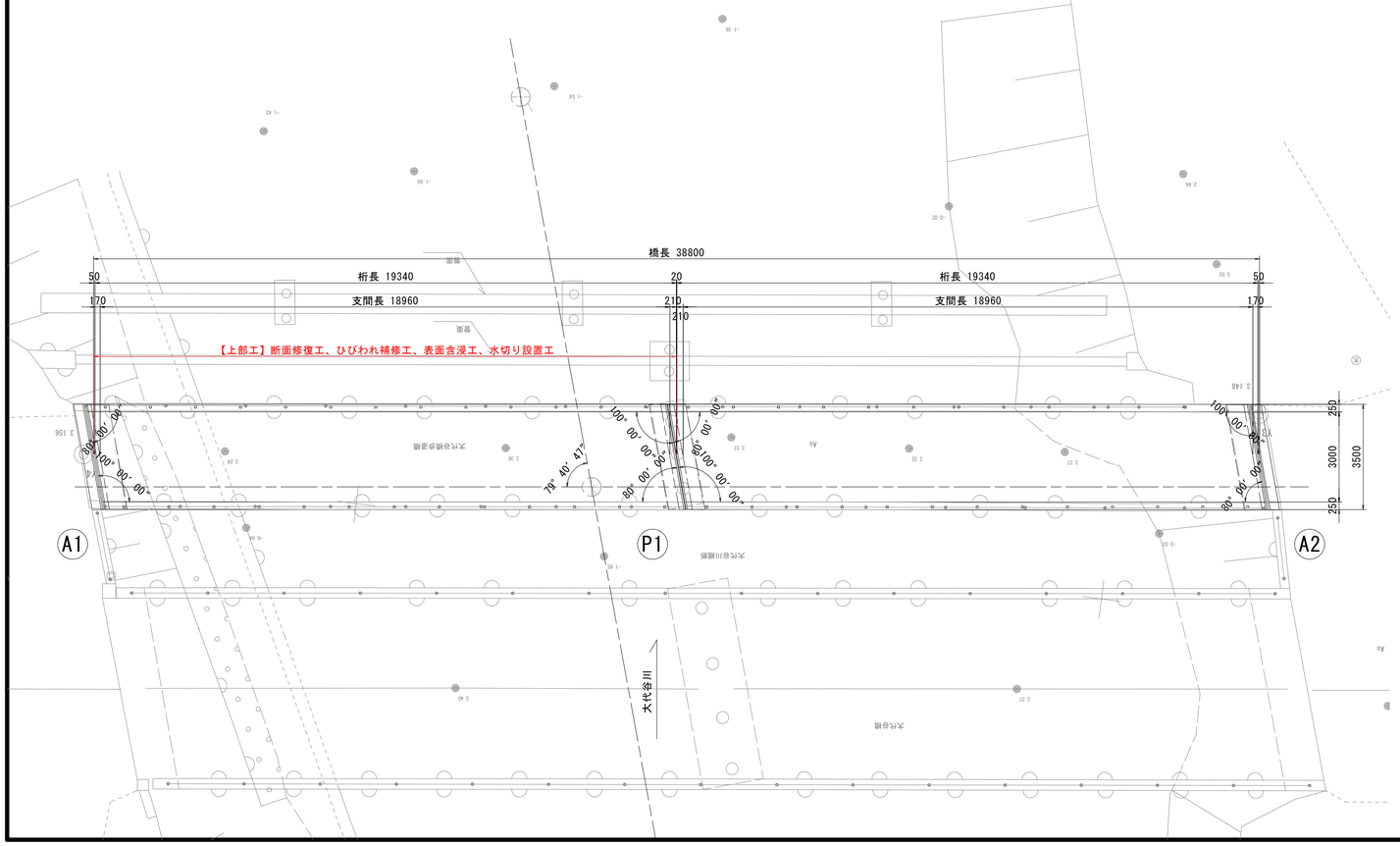
側面図



断面図 S=1:30



平面図



設計条件

道路条件	
路　線	市道　木津野松村線
道路規格	不明
設計速度	不明
設計荷重	不明
大型車交通量	-
計画交通量	-
交差物件	一級河川吉野川水系　大代谷川
幾何条件	
橋　名	大代谷橋歩道橋
橋　長	L=38.800m
桁　長	19.340m + 19.340m
支 間 長	18.960m + 18.960m
総 幅 員	3.500m
有効幅員	3.000m
斜　角	θ = 79° 40′ 47″（道路中心）
平面線形	R = ∞
縦断勾配	i=1.627%（／）～1.343%（＼）
横断勾配	i=0.433%（／）
構造形式	
上部工	鋼溶接橋　I桁橋(非合成)
舗　装	アスファルト舗装 t=30mm
下部工	逆T式橋台(A1,A2橋台)、パイルベント橋脚(鋼製)(P1橋脚)
基礎工	不明(A1,A2橋台)、パイルベント基礎(P1橋脚)
支　承	線支承

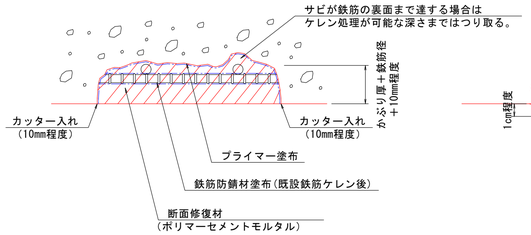
図面番号	第　1　号		図面総数	全　8　葉		
工事名称	大代谷橋歩道橋橋梁補修工事					
図名	補修一般図			縮尺(A1)：図示		
製作年月	令和6年8月		所属年度	令和6年度		
係員	課長	副課長	係　長	係　員	設計・製図	照査

鳴門市　都市建設部　土木課

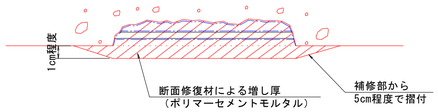
補修詳細図（その1）

大代谷橋歩道橋

断面修復工詳細図

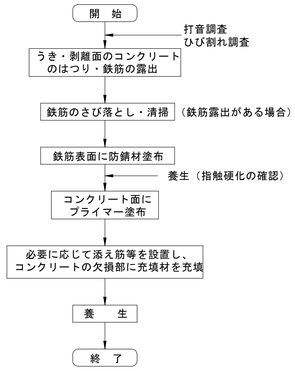


〔かぶり厚が小さい場合〕

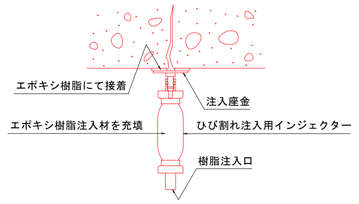


※ 使用する材料の仕様に基づいて施工すること。
※ 補修部縁端は、フェザーエッジが生じないようにカッターで切れ込みを入れること。
※ 鉄筋のかぶり厚が薄い場合は、ポリマーセメントモルタルで10mm以上は確保するように盛って擦り付ける形で
　断面修復を行うこと。施工時の審線等の残鉄は可能な限り撤去して断面修復すること。
※ はつり深さは適宜調整するものとし、脆弱部は完全に除去して充填を行うこと。
※ 鉄筋がある場合は、既設鉄筋の背面、既設部材の粗骨材寸法程度まで除去する。（10～20mm程度）
※ 豆板部で粗骨材が露出している部分においては脆弱部はは つり取り、健全部を露出して
　ポリマーセメントモルタル等を塗布や充填して復旧すること。
※ はつりを行い、鉄筋が確認された場合は錆を除去した後、鉄筋防錆材を塗布すること。

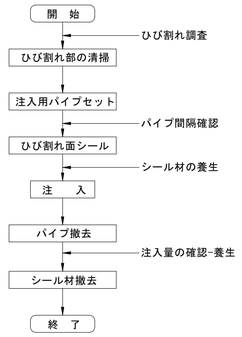
〔断面修復工法の施工要領〕



ひびわれ注入工詳細図

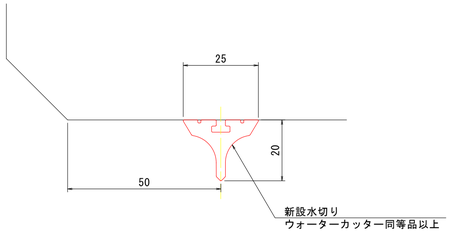


〔ひび割れ注入工法の施工要領〕



注）施工時に現地実測の上、数量を確定すること。
注）規格は、エポキシ樹脂注入材 1種（下部工）、3種（上部工）同等品を推奨とする。
注）基本的にひび割れ幅0.2～1.0mm以下を対象にひびわれ注入による補修とする。
注）道路石灰部は研掃して状態を見極めて、補修すること。
注）損傷状況により補修工法に変更が生じる場合は、監督員と協議の上、最終決定すること。

水切り詳細図 S=1:1

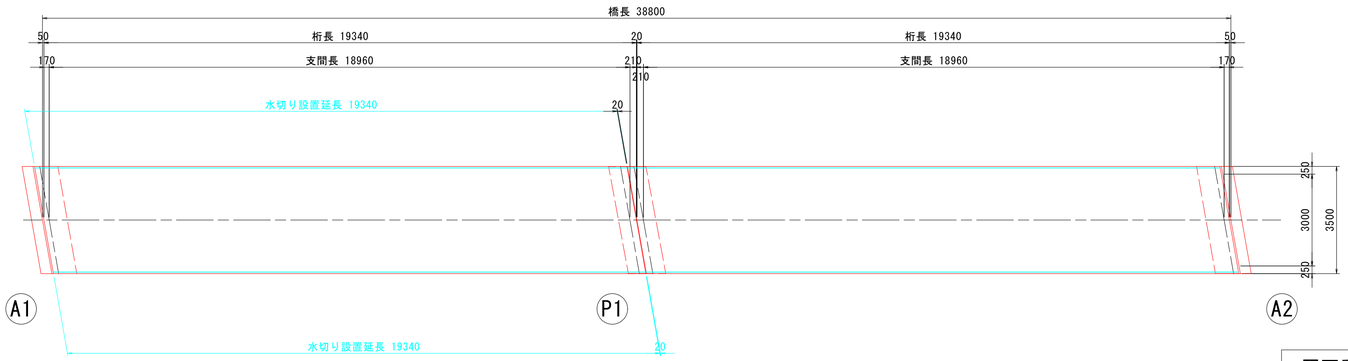


施工手順

表面処理
↓
素地乾燥確認
↓
接着剤塗布
↓
水切り設置
↓
硬化養生

注1）水切りと床版の接着性、施工性、水切り機能を確保する
　　ため、床版の端から50mm程度の余裕しろを確保すること。

水切り設置位置図 S=1:100



図面番号	第　2　号	図面総数	全　8　葉
工事名称	大代谷橋歩道橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図（その1）		縮尺(A1)：図示
製作年月	令和6年8月	所属年度	令和 6 年度

係員	課長	副課長	係　長	係　員	設計・製図	照査

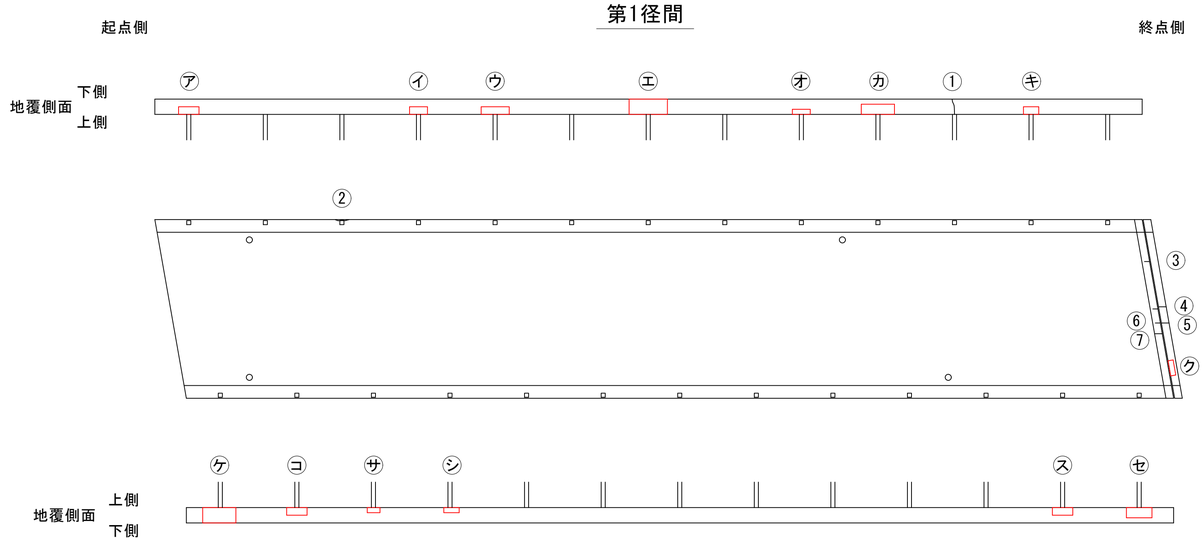
鳴門市　都市建設部　土木課

補修詳細図（その2）S=1:60

大代谷橋歩道橋

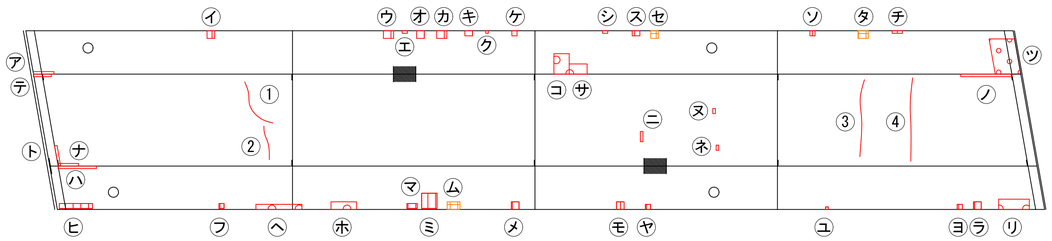
橋　面

第1径間



床版下面

第１径間



断面修復面積（左官工法）

部材	No.	種別	幅　W【mm】	延長　L【mm】	深さ t【mm】	面積　A【m2】	体積　V【m3】
地覆0101	ア	?離	400	150	50	0.0600	0.0030
地覆0101	イ	?離	350	150	50	0.0525	0.0026
地覆0101	ウ	?離	550	150	50	0.0825	0.0041
地覆0101	エ	?離	750	300	50	0.2250	0.0113
地覆0101	オ	?離	350	100	50	0.0350	0.0018
地覆0101	カ	?離	650	200	50	0.1300	0.0065
地覆0101	キ	?離	300	150	50	0.0450	0.0023
伸縮装置0102	ク	?離	300	100	50	0.0300	0.0015
地覆0201	ケ	?離	650	300	50	0.1950	0.0098
地覆0201	コ	?離	400	150	50	0.0600	0.0030
地覆0201	サ	?離	250	100	50	0.0250	0.0013
地覆0201	シ	?離	300	100	50	0.0300	0.0015
地覆0201	ス	?離	400	150	50	0.0600	0.0030
地覆0201	セ	?離	500	200	50	0.1000	0.0050

ひびわれ延長（注入工）

部材	No.	種別	幅　W【mm】	延長　L【mm】
地覆0101	1	地覆ひびわれ	0.2	310
地覆0101	2	地覆ひびわれ	0.2	280
伸縮装置0102	3	伸縮装置ひびわれ	0.2	100
伸縮装置0102	4	伸縮装置ひびわれ	0.2	150
伸縮装置0102	5	伸縮装置ひびわれ	0.2	150
伸縮装置0102	6	伸縮装置ひびわれ	0.2	100
伸縮装置0102	7	伸縮装置ひびわれ	0.2	150

断面修復面積（左官工法）

部材	No.	種別	幅　W【mm】	延長　L【mm】	深さ t【mm】	面積　A【m2】	体積　V【m3】
床版0101	ア	?離	400	50	50	0.0200	0.0010
床版0101	イ	鉄筋露出	150	50	50	0.0075	0.0004
床版0101	ウ	鉄筋露出	200	50	50	0.0100	0.0005
床版0101	エ	鉄筋露出	100	50	50	0.0050	0.0003
床版0101	オ	鉄筋露出	150	50	50	0.0075	0.0004
床版0101	カ	鉄筋露出	200	50	50	0.0100	0.0005
床版0101	キ	鉄筋露出	150	100	50	0.0150	0.0008
床版0101	ク	鉄筋露出	50	50	50	0.0025	0.0001
床版0101	ケ	鉄筋露出	100	100	50	0.0100	0.0005
床版0101	コ	豆板	300	400	50	0.1200	0.0060
床版0101	サ	豆板	350	200	50	0.0700	0.0035
床版0101	シ	鉄筋露出	100	50	50	0.0050	0.0003
床版0101	ス	鉄筋露出	150	100	50	0.0150	0.0008
床版0101	セ	うき	150	150	50	0.0225	0.0011
床版0101	ソ	鉄筋露出	100	100	50	0.0100	0.0005
床版0101	タ	うき	200	150	50	0.0300	0.0015
床版0101	チ	鉄筋露出	200	50	50	0.0100	0.0005
床版0101	ツ	豆板	500	700	50	0.3500	0.0175
床版0201	テ	?離	350	50	50	0.0175	0.0009
床版0201	ト	?離	400	50	50	0.0200	0.0010
床版0201	ナ	?離	400	50	50	0.0200	0.0010
床版0201	ニ	?離	50	200	50	0.0100	0.0005
床版0201	ヌ	?離	50	100	50	0.0050	0.0003
床版0201	ネ	?離	50	100	50	0.0050	0.0003
床版0201	ノ	?離	1000	50	50	0.0500	0.0025
床版0301	ハ	?離	750	50	50	0.0375	0.0019
床版0301	ヒ	鉄筋露出	650	100	50	0.0650	0.0033
床版0301	フ	鉄筋露出	100	100	50	0.0100	0.0005
床版0301	ヘ	豆板	900	100	50	0.0900	0.0045
床版0301	ホ	豆板	500	150	50	0.0750	0.0038
床版0301	マ	鉄筋露出	200	100	50	0.0200	0.0010
床版0301	ミ	鉄筋露出	300	300	50	0.0900	0.0045
床版0301	ム	うき	250	150	50	0.0375	0.0019
床版0301	メ	鉄筋露出	150	150	50	0.0225	0.0011
床版0301	モ	鉄筋露出	150	150	50	0.0225	0.0011
床版0301	ヤ	鉄筋露出	100	100	50	0.0100	0.0005
床版0301	ユ	鉄筋露出	50	50	50	0.0025	0.0001
床版0301	ヨ	鉄筋露出	100	100	50	0.0100	0.0005
床版0301	ラ	鉄筋露出	150	150	50	0.0225	0.0011
床版0301	リ	豆板	600	200	50	0.1200	0.0060

ひびわれ延長（注入工）

部材	No.	種別	幅　W【mm】	延長　L【mm】
床版0201	1	床版ひびわれ	0.2	1070
床版0201	2	床版ひびわれ	0.2	670
床版0201	3	床版ひびわれ	0.2	1520
床版0201	4	床版ひびわれ	0.2	1640

《補修工法一覧表》

損傷	補修工法
ひび割れ幅0.2mm未満	ー
ひび割れ幅0.2mm以上1.0mm未満	ひび割れ注入工
ひび割れ幅1.0mm以上	ひび割れ充填工
遊離石灰	ひび割れ充填工
剥離・鉄筋露出	断面修復工
うき・豆板	断面修復工

凡　例	
ひびわれ	
う　き	
剥　離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
豆板・空洞	
漏水・滞水	

《ひび割れの線種》

ひび割れ幅0.2mm未満

ひび割れ幅0.2mm以上1.0mm未満

ひび割れ幅1.0mm以上および遊離石灰

凡例

①～：ひびわれ注入工法

ア～：断面修復工法

注）足場架設後に現地実測の上、数量を確定すること。
注）基本的に0.2mm以上のひび割れを補修対象とする。
注）遊離石灰を伴う箇所は、裏調査の上で補修すること。
　　遊離石灰により、注入が困難な場合はUカット工法（もしくはVカット工法）
　　で取り除き、ポリマーセメントモルタル埋戻による充填工法に変更し補修すること。
注）記載無きひび割れはひび割れ幅0.2mmを示す。

図面番号	第　3　号	図面総数	全　8　葉
工事名称	大代谷橋歩道橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図（その2）	縮尺(A1)：図示	
製作年月	令和6年8月	所属年度	令和 6 年度

係員	課長	副課長	係　長	係　員	設計・製図	照査

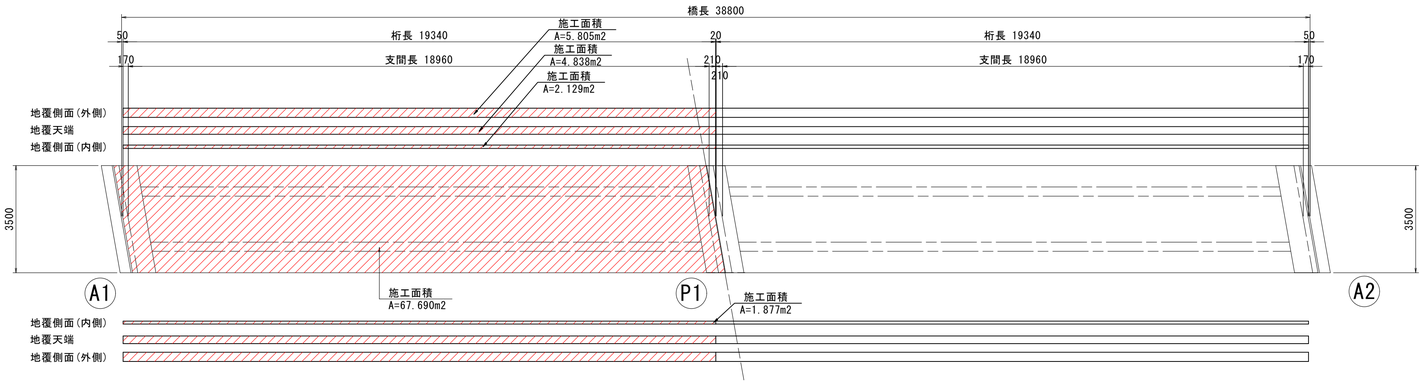
鳴門市　都市建設部　土木課

補修詳細図（その3） S=1:100

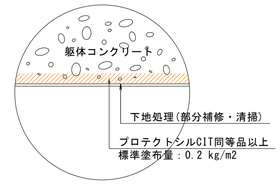
大代谷橋歩道橋

表面含浸工

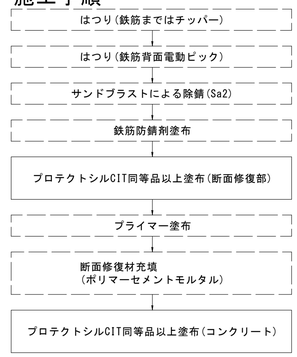
床版下面



詳細図

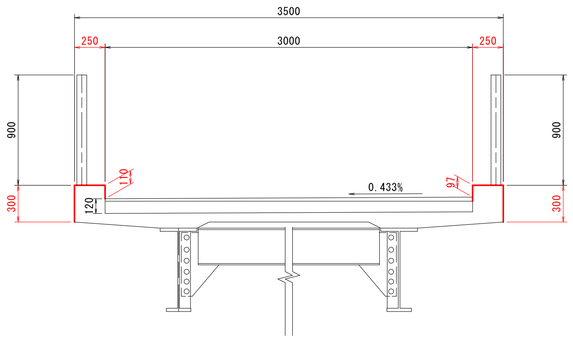


施工手順



断面図 S=1:25

地覆部



図面番号	第 4 号	図面総数	全 8 葉
工事名称	大代谷橋歩道橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図（その3）	縮尺(A1)：図示	
製作年月	令和6年8月	所属年度	令和6年度

係員	課長	副課長	係長	係員	設計・製図	照査

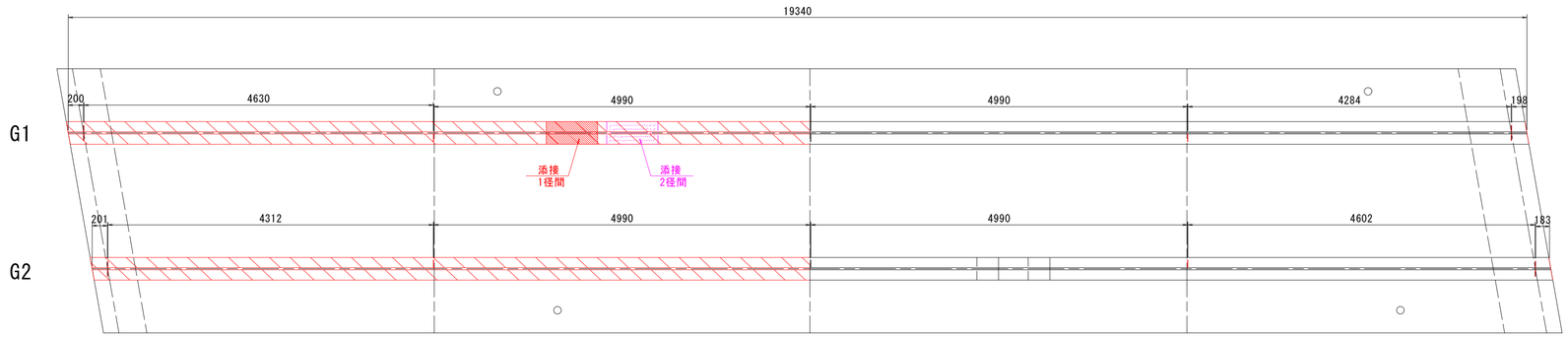
鳴門市　都市建設部　土木課

塗装塗替詳細図（その1） S=1:40

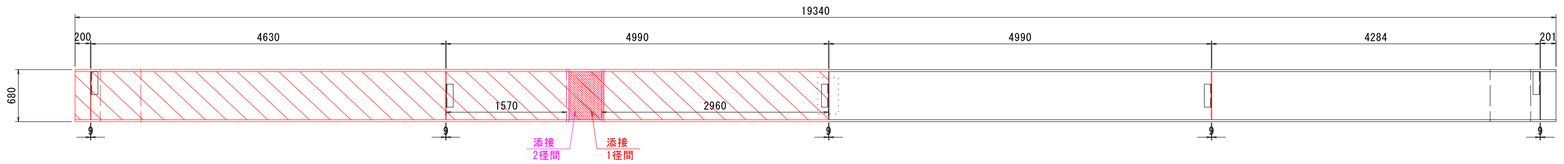
大代谷橋歩道橋
第1～2径間

主桁

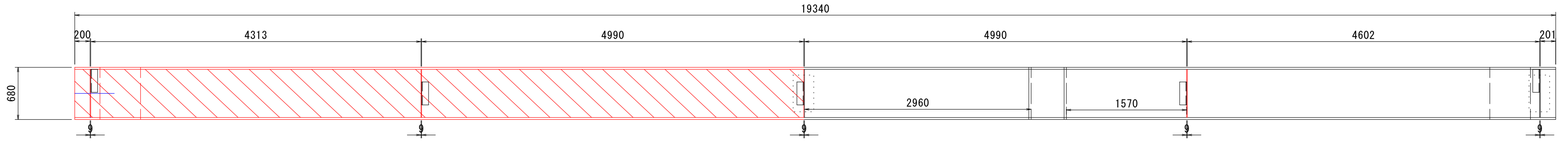
第1径間　上フランジ



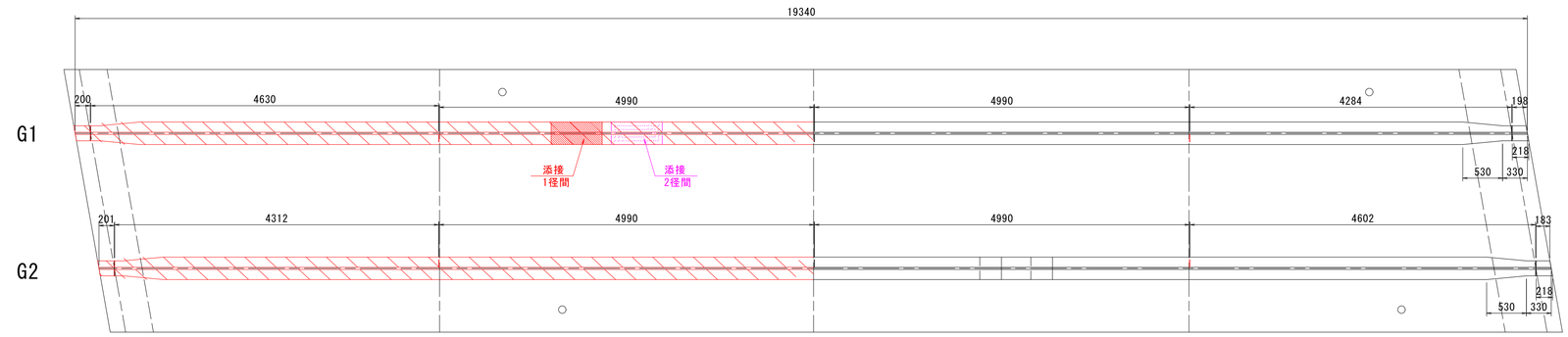
第1径間　G1 ウェブ



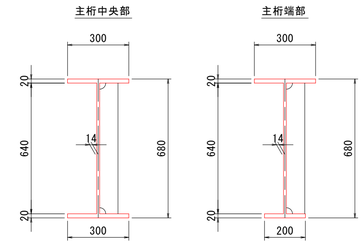
第1径間　G2 ウェブ



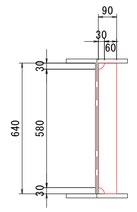
第1径間　下フランジ



主桁断面図 S=1:15

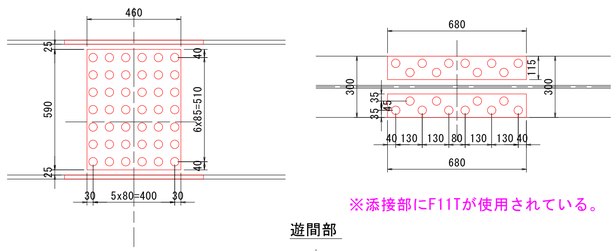


補剛材断面図 S=1:15



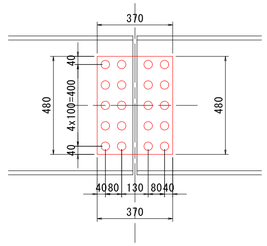
添接詳細図 S=1:15

主桁中間部



※添接部にF11Tが使用されている。

遊間部



図面番号	第　5　号		図面総数	全　8　葉		
工事名称	大代谷橋歩道橋橋梁補修工事					
図名	塗装塗替詳細図（その1）			縮尺(A1)：図示		
製作年月	令和6年8月		所属年度	令和6年度		
係員	課長	副課長	係　長	係　員	設計・製図	照査

鳴門市　都市建設部　土木課

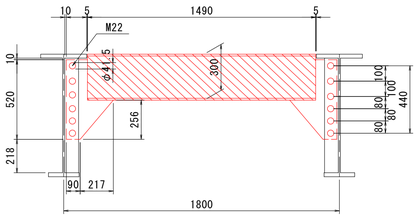
塗装塗替詳細図（その2） S=1:25

大代谷橋歩道橋
第1径間

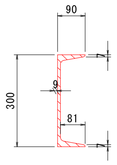
横桁詳細図 S=1:20

支点部

正面図

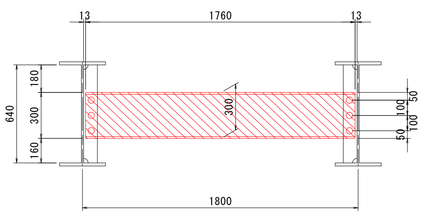


断面図

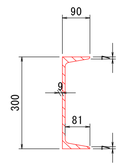


中間部

正面図



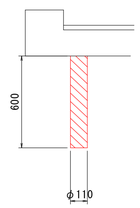
断面図



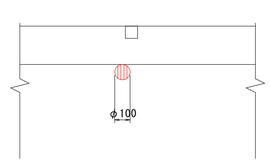
排水管 S=1:20

N=8箇所

正面図

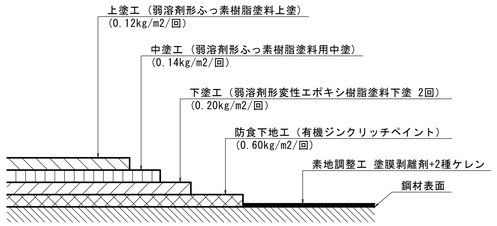


平面図

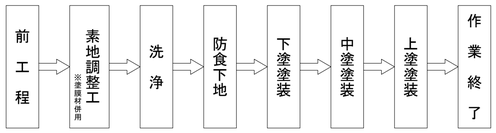


塗替え塗装要領

（Rc-Ⅱ塗装系）



塗替塗装工フロー図



※留意点

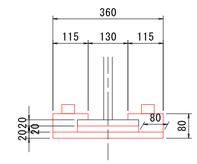
・本橋梁は設計図書及び完成図書が存在せず、現地寸法計測により作図している。
・工事の際には、足場設置後に寸法計測を行い、相違が無いことを確認すること。
・本橋梁は塗膜調査の結果、鉛が含まれているため、塗膜剥離剤+2種ケレンによる素地調整を行う。
・剥離剤は塗料との相性により剥離時間が異なるため、施工時に試験を行い、最適な材料を選定することが望ましい。

仕様一覧 （Rc-Ⅱ塗装系）

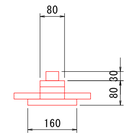
塗装工程	塗料名	使用量 (g/m2)	塗装間隔
素地調整	塗膜剥離剤＋2種ケレン		4時間以内
下　塗	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下　塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日
下　塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日～10日
中　塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	1日～10日
上　塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	

支承 S=1:10

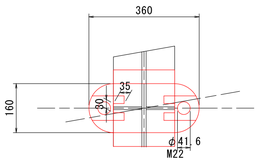
正面図



側面図



平面図



図面番号	第　6　号	図面総数	全　8　葉
工事名称	大代谷橋歩道橋橋梁補修工事		
図名	塗装塗替詳細図（その2）		縮尺(A1)：図示
製作年月	令和6年8月	所属年度	令和6年度

係員	課長	副課長	係　長	係　員	設計・製図	照査

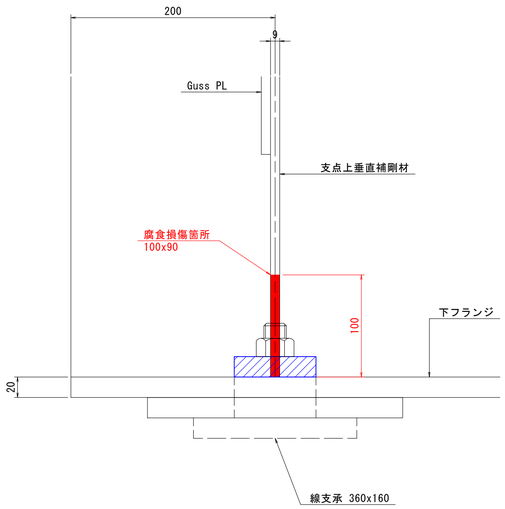
鳴門市　都市建設部　土木課

当て板補強詳細図 S=1:3

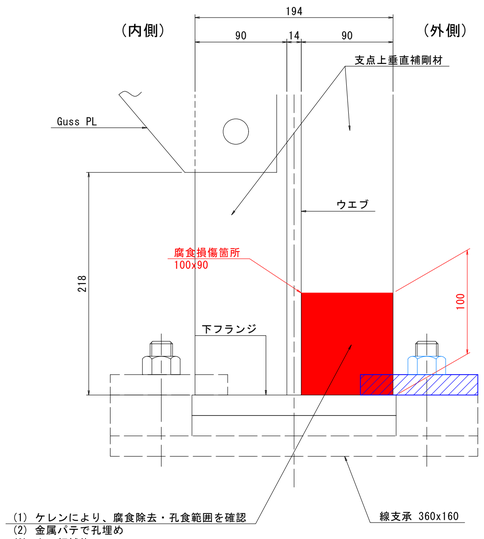
第1径間 G2桁起点側(損傷箇所①)

現 況 図

側面図



正面図

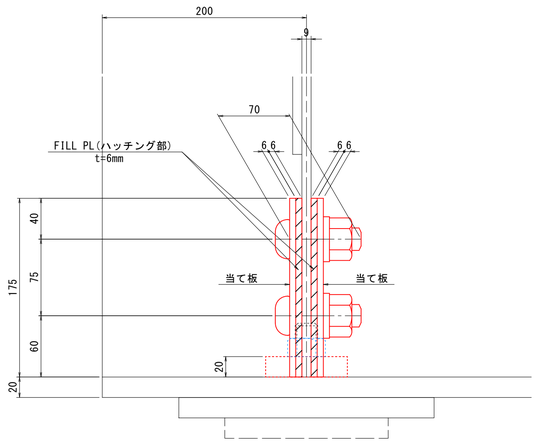


(1) ケレンにより、腐食除去・孔食範囲を確認
(2) 金属パテで孔埋め
(3) 当て板補修

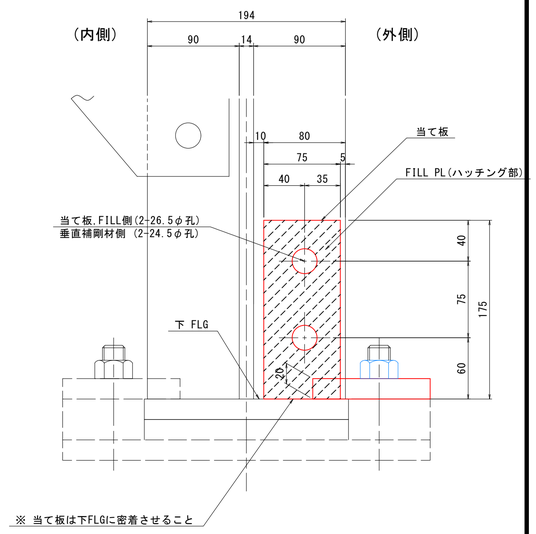
作業順序

あて板補修図

側面図

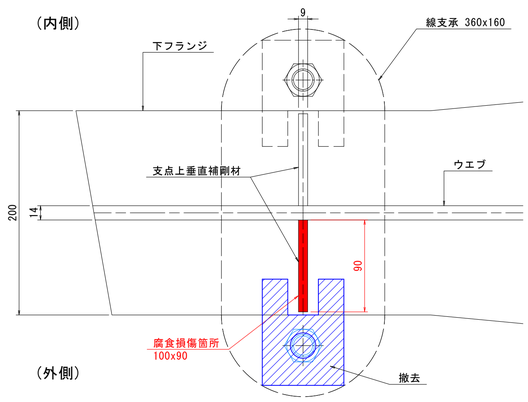


正面図



※ 当て板は下FLGに密着させること

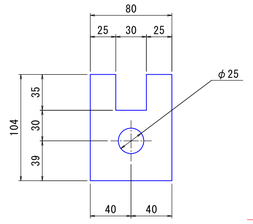
平面図



＜施工要領＞

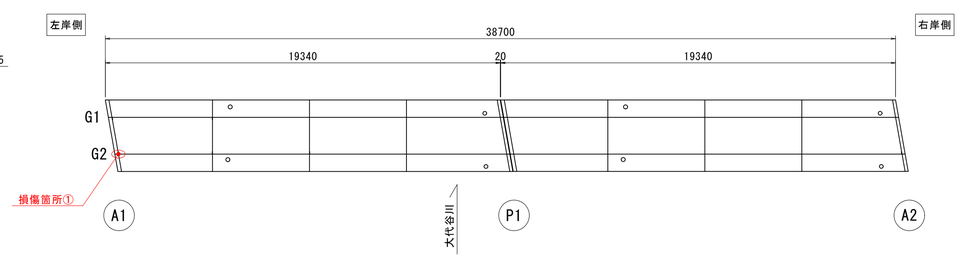
1. ケレンを行い孔食、減肉範囲を確認し、補修範囲を決定する。
2. 減肉、孔食箇所は金属パテで孔埋め補修を行う。
3. 金属パテで孔埋め完了後、当て板による補修を行う。

ピンチプレート取替えのため撤去

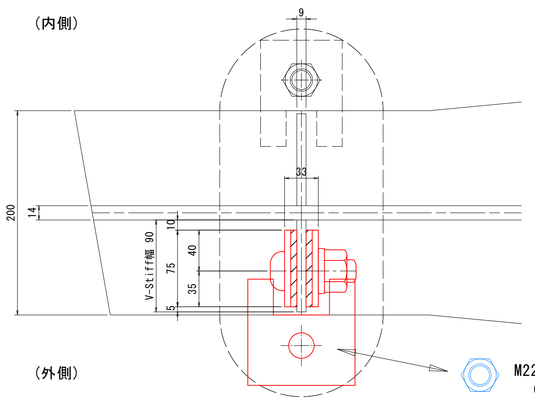


撤去数量(1箇所あたり・全1箇所)
1-PL 104×20× 80(SS400)

位置図

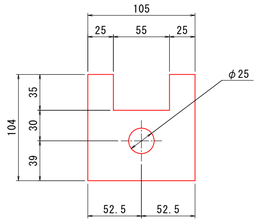


平面図



M22アンカーナット
(一時取外し)

新設(取替)ピンチプレート



鋼材数量(1箇所あたり・全1箇所)
1-PL 104×20×105(SS400)

鋼材数量(1箇所あたり・全1箇所)
2-STIF PL 75x 6x175(SS400)
2-FILL PL 75x 6x175(SS400)
2-TCB M22x70(S10T)

注) 1. 孔食、減肉範囲により、適宜あて板寸法を決定すること。

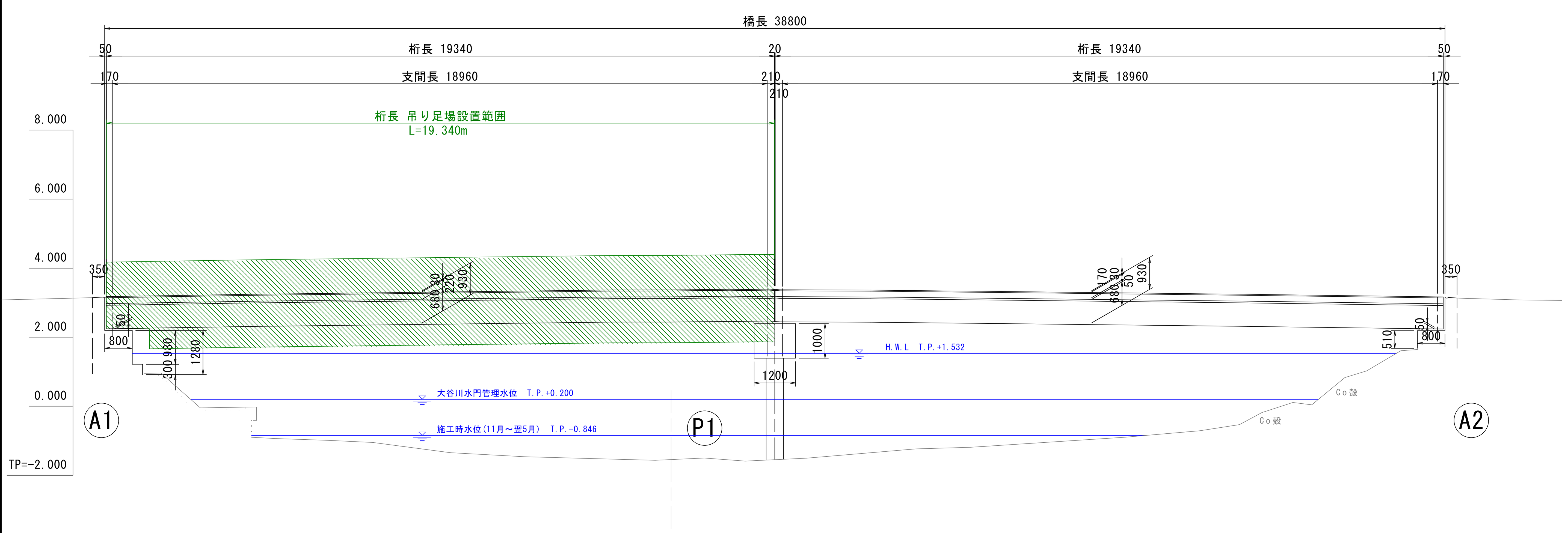
図面番号	第 7 号	図面総数	全 8 葉			
工事名称	大代谷橋歩道橋橋梁補修工事					
図名	当て板補強詳細図	縮尺(A1):図示				
製作年月	令和6年8月	所属年度	令和6年度			
係員	課長	副課長	係 長	係 員	設計・製図	照査

鳴門市 都市建設部 土木課

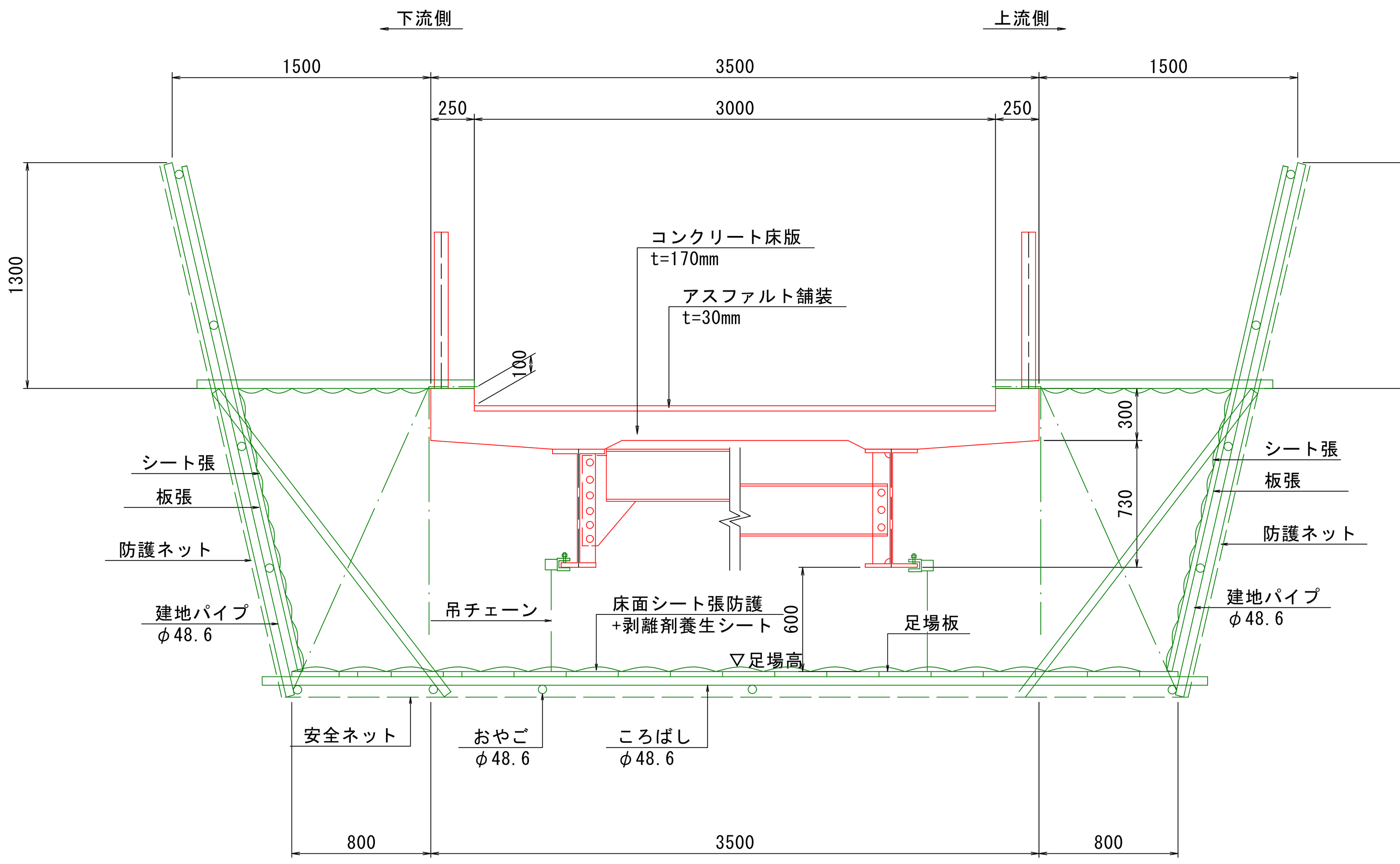
施工要領図　S=1:100

大代谷橋歩道橋

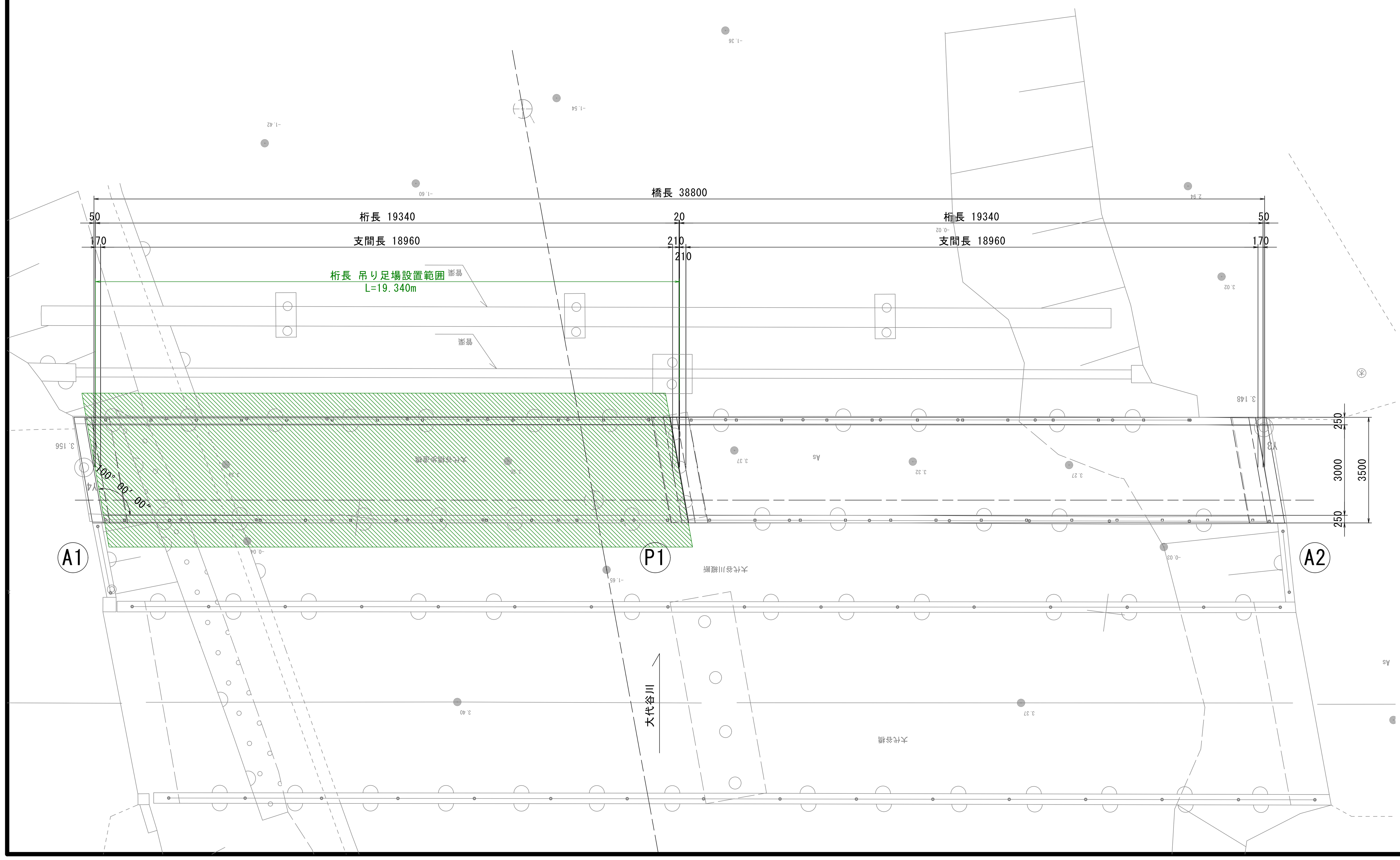
側面図



断面図　S=1:30



平面図



注記
1.塗膜剥離時は、有害物質を外部に持ち出さないようにすることを目的に
　別途クリーンルームを設置すること。

図面番号	第　8　号	図面総数	全　8　葉			
工事名称	大代谷橋歩道橋橋梁補修工事					
図名	施工要領図				縮尺(A1)：図示	
製作年月	令和6年8月		所属年度		令和6年度	
係員	課長	副課長	係長	係員	設計・製図	照査
鳴門市　都市建設部　土木課						